



四條畷市議会議員

ながはた

長畑ひろのり News

発行：2008.02.01

vol.008

ご意見は次の e メールアドレスへ sky@nagahata.jp phone：072-878-3205
公式HP & ブログも次のURLへ http://nagahata.jp fax：072-877-1194

こんにちは、市政報告です！

皆さんこんにちは。1月は府知事選が10日から27日まで行われました。その間は私が行う駅頭などでの政治活動は出来ませんでしたが、再開しましたので宜しくお願いします。

さて今号は、市内全域（今までは一部地域のみ）で今月から開始される廃プラの収集と、市の財政にとって重要な公社保有地の現状を伝えさせていただきます。

「廃プラスチック分別収集」について！

今年2月より北河内4市リサイクル施設が稼動するため、四條畷市内全地域（先に行われている地域も一部あります）でペットボトル及びプラスチック製容器包装の分別収集が実施されます。4市が歩調を合わせ分別収集の取り組みを開始しますので、市民のみなさまのご協力をお願いいたします。

ただ「容器包装に係る分別収集及び商品化に関する法律」いわゆる「容器包装リサイクル法」に基づいて市も行っているのですが、分別は大変理解しにくいものとなっています。

対象については、ペットボトル（右図）とプラスチック製の容器や包装（右下図）で、通常はマーク表示があります。

右図のようなマーク表示のない物は、ほとんどが対象外となります。つまりプラスチックという材質の収集が目的ではないのです。

コンビニ弁当を例に説明をしますと、弁当を包んでいるサランラップやケースは容器包装なので対象となりますが、ついているプラスチックのフォークやスプーンは、容器包装ではなく商品なので対象外となります。しかし、家庭で使うサランラップは包装ではなく商品なので対象外となるのです。



廃プラ収集に関しては、私も昨年の12月議会で会派を代表して討論を行いましたので、その内容を一部抜粋します。

・・・循環型社会をめざす取り組みの為の公の施設が、地域住民の生活をおびやかす物であってはならないと思います。

また、現在においても市民の反対の声が多く聞かれます。生活環境調査報告書を見ましても、住民が一番心配しているのは、有害物質における環境汚染や、健康被害があるのではないかという疑念。それどころか、この調査の方法にすら疑問を持っている方もおられます。そういう点を見ましても、行政は住民の不安を解消していく責任があると思います。

そして、稼動後も周囲の環境が悪化しない様にしっかりと監視し、その為の対策は常に行って頂きたい。・・・



この施設は、活性炭吸着設備の出口でVOC・トルエンを連続測定したものを、電光掲示板により外部へ表示する様になっており、その掲示板は、管理棟前の入口に付いています。

北河内4市リサイクルプラザ 管理棟前の電光掲示板

収集の詳細につきましては、市が昨年より広報誌等で配布している小冊子を読んで頂くか、市の生活環境課の窓口、もしくは私（長畑）でも結構ですので直接お尋ね下さい。

「土地開発公社」について

裏面に「公社保有地」について書いたのですが、その前に知識として「土地開発公社」について市民のみなさまに知って頂きたい、この点について簡単に説明させていただきます。

土地開発公社とは、年度ごとの予算に縛られる自治体に代わり、昭和47（1972）年に制定された「公有地の拡大の推進に関する法律」において、全国の半数の自治体で出来た特殊法人ですが、自治体が全額出資して設立するので、自治体の分身と言えます。しかし、悪く考えれば自治体の抜け穴として利用される可能性がある注意が必要な法人です。

四條畷市も高度成長期や人口の急増等に伴い地価の高騰が
おこり、その為、公共用地等の取得問題が深刻となり、昭和
48年3月30日に四條畷市土地開発公社は設立されました。

そして、驚くことに四條畷市の四條畷市土地開発公社に対
する平成19年度から平成23年度の債務保証は60億円と
なっています。つまり、60億円までは四條畷市が保証する
ので、四條畷市土地開発公社は、何も心配することなく銀行
から60億円まで借りることができるのです。

土地開発公社の本来の事業目的は、金融機関から独自に資
金調達し、土地の先行取得等です。そして、高額な土地の買
収であっても議会を通さずに決めることができます。

・・・右上へ続く

土地の価格が常に上がるバブルの時代なら、議会の許可を
待っていると価格がすぐに上昇していく為、土地取得決定の
スピードが必要だったでしょう。その点については正し
かつたのかも知れませんが、今の時代、先行取得に価値を見出す
ことは出来ません。それでも組織を維持していくのは何故な
のでしょうか？いや、四條畷市としては維持（理由は「公社
保有地」の所で書きます）しなくてはならないのです。

現在、四條畷市土地開発公社の理事職員は市の職員が兼務
しており、先に書きましたように自治体が債務保証までして
います。その為、外部チェックも内部チェックも出来ない
のが実状です。つまり、四條畷市民の知ることが難しい中で
簡単に土地が買ってしまえる制度が確立されているのです。

結局、市民が知る時には、すでに取返しがつかないのです。

面積 (1坪3.3㎡で計算)	年間支払利息	帳簿価格
33,307㎡ (約1万坪)	69,749,313円 (約7千万円)	5,240,540,275円 (約52億4千万円)
		内訳 用地取得費等 3,800,649,678円 支払利息合計 1,439,890,597円

「公社保有地」について！

平成19年3月31日現在の四條畷市土地開発公社が所有
している帳簿価格等を表にしました。今は公社の所有ですが
結局は、市が借金をしてでも買い取らなければなりません。

四條畷市土地開発公社についての大きな問題は、忍ヶ丘駅
前の土地（現タイムズ駐車場）です。この土地の帳簿価格は
表に示している約52億4千万円の約半分を占めています。

そして、忍ヶ丘駅前の土地を何も手を打たず今のままの状
態を続けるならば、平成19年3月31日現在ですが、その
土地だけで毎年約3千5百万円の利息を払い続けなければ
なりません。この利息も金利が今後上がるようですので負担は
益々大きくなっていくものと思われます。そしてその利息の
合計は、用地取得（昭和47年11月～平成4年3月）の時
期は違うのですが、すでに用地取得にかかった費用の約50
%になっています。

また、全体でも
利息の負担は大き
く、表にあるよう
に支払利息合計は
用地取得にかかっ
た費用の約40%
にもなっています。



借金が膨らむだけの忍ヶ丘駅前の土地をどうすれば良いの
か、これは非常に難しい問題です。もしこの土地を売却した
としても、近くの似通った土地の固定資産評価額から推定時
価を計算しますと2億4千万円程度にしかなりません。それ
を市が借金して買い取り、その後、借金返済のために土地を
売ると、利子で1.5倍に膨らんだ約24億円の借金だけが
残り、今ある約44.5億円の借金にプラスされ、夕張市の様
に財政再建準用団体へと転げ落ちてしまいます。

しかし、毎年の支払い利息を考えると、早急に手を打たな
ければならないのです。有効な利用方法などが無いのか、あ
らゆる角度から考え、解決策を練らなければなりません。

また、タイムズには土地を貸していますので、四條畷市土
地開発公社へ毎月43万円、年間にしますと516万円の賃
貸料が入っていることも報告させていただきます。

用地取得の必要時は予算化し、議会を通して行うことが財
政健全化になると、土地開発公社を解散しているところも出
てきました。四條畷市土
地開発公社も同じ様にし
ようとすると、また市に
借金が増えてしまう為、
解散も出来ません。

しかし、解散できるか
どうか、これから全国
自治体の体力評価を示す
のは間違いありません。